

廃炉・汚染水対策チーム会合 第19回事務局会議 議事概要(案)

日時: 2015年6月25日(木) 10:00~12:10

場所: 東京電力 本店 本館3階C会議室／福島第一免震棟2階会議室
／福島第一新事務棟2階会議室／福島復興本社(復興推進室)

出席者:

岡本教授(東大)

田中対策監、吉田審議官、土井審議官、新川室長(資工庁)、
田口審議官(文科省)、前田室長(厚労省)、金城室長(規制庁)、

森山理事(JAEA)、劔田理事長(IRID)、山名副理事長、五十嵐理事(賠償・廃炉機構)、
金山理事代理(産総研)、横山常務理事(電中研)、飯倉理事(東芝)、
魚住 CEO(日立)、姉川主幹技師(三菱重工)、増田 CDO 代理(東電) 他

議事:

1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があり、現状について関係者で情報を共有した。

<滞留水の貯蔵状況>

C. この会議で共有されていない、1,000 トンノッチタンクのような管理すべきその他の汚染水の保有状況についても、東電から規制庁へ情報提供してもらっており、本会議においても「滞留水の貯蔵状況」に追加し共有頂きたい。(金城室長、岡本教授)

C. 地下水バイパスの稼動から1年経過したことから、1年間の総量の増加分から流入量を評価して頂きたい。(岡本教授)

Q. 多核種除去設備の能力は地下水流入量約 300m³/日に対し余裕があり、ストロンチウム処理水を順調に処理できるのか。(山名副理事長)

A. 2015年3~4月の稼動状況として、既設・増設・高性能多核種除去設備の合計で平均約1,200m³/日の処理能力であり余裕があるものと考えているが、点検停止により処理能力の低下が考えられる。(東電)

2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力、資源エネルギー庁より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
 - ① 1,000t ノッチタンクから3号タービン建屋への移送ホースの漏えいについて
 - ② 増設多核種除去設備の循環待機運転停止について
 - ③ 2、3、4号機海水配管トレンチ 止水・閉塞工事の進捗状況について
 - ④ 1~4号機地下貯水槽漏えいに伴う汚染土回収について(地下貯水槽 No.1)

- ⑤ 3号機廃棄物地下貯蔵建屋(FSTR)廃スラッジ貯蔵タンク(A)側板の変形について
- ⑥ 1号機バルーンずれ状況及び今後のスケジュールについて
- ⑦ 3号機使用済燃料プール内大型ガレキ撤去作業の進捗状況について
- ⑧ 「原子炉格納容器内部調査技術の開発」ペDESTAL内側プラットホーム上調査(A2調査)の現地実証試験のうち X-6 ペネ用遮へいブロック撤去の実施について(取り外し状況について)
- ⑨ 覆土式一時保管施設(3槽)ガレキ受け入れ開始について
- ⑩ 1号機使用済燃料プール水浄化(放射能除去)の実施について
- ⑪ タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
- ⑫ 敷地内の線量低減の進捗状況について
- ⑬ 大型休憩所食事スペースの改修について
- ⑭ 5・6号機の現状について
- ⑮ 中長期ロードマップ改訂について

・ 主なやりとりは以下の通り

<1,000t ノッチタンクから3号タービン建屋への移送ホースの漏えいについて>

Q. タービン建屋の方が高濃度汚染水であると考えられるが、何故タービン建屋へ移送したのか。(岡本教授)

A. 1,000t ノッチタンク内の汚染水を直接処理できる設備がないため、タービン建屋へ移送したもの。今後、35M 盤内での処理について検討する。(東電)

C. K 排水路の時系列データがあることから、環境への影響の知識となりうる。放出源が限定的であるため、放射性物質の移動のパターンを分析し認識して頂きたい。(山名副理事長)

Q. 今回の漏えいに伴う総放出量はどの程度か。(山名副理事長)

A. 5/27 からの推定漏えい量約 7~15m³ と 1,000t ノッチタンク内貯留水の全β濃度 1.1 × 10⁶Bq/L から、8~17 × 10⁹Bq と評価している。(東電)

C. K 排水路において、最初に濃度上昇した 5/28 7:00 の水質分析結果が判明したのが 5/29 であり、漏えいの発見が遅れたものと考えている。K 排水路のモニタリング方法について B・C 排水路のような連続モニタへの改善を検討頂きたい。(金城室長)

Q. PE 管化の工事が中断していたのは組織コミュニケーションの問題だと思われる。改善頂きたい。(規制庁)

A. 陸側遮水壁の凍結設備設置後にPE管を設置する必要があったのは事実であるが、中断時間を削減する余地があった。改善していきたい。(東電)

<増設多核種除去設備の循環待機運転停止について>

Q. 地絡は発生していなかったのか。(山名副理事長)

A. 地絡痕は確認されていないが、電源が切り替わっていることから、地絡は発生したものと考えている。地絡原因を調査中である。(東電)

<2、3、4号機海水配管トレンチ 止水・閉塞工事の進捗状況について>

- Q. トレンチ内の汚染水について、トレンチ内に残すより復水貯蔵タンクで保管する方が望ましいと思われる。なぜ移送できないのか。(岡本教授)
- A. 復水貯蔵タンクは耐震 B クラスであるため、タンクが地震等により損傷が起こった場合の管理について確認している。(金城室長)
- C. トレンチ内に残した場合、津波で海へ流出するリスクが高い。トレンチ内の水は海に近く象徴的であるため、よくご検討頂きたい。(岡本教授)
- C. 引き続き丁寧に説明させて頂く。(東電)

<1~4号機地下貯水槽漏えいに伴う汚染土回収について(地下貯水槽 No.1)>

- Q. 表面のβ線線量率が $10 \mu\text{Sv/h}$ を基準に汚染土か否かを判別しているが、どのような地下汚染の状態か放射化学分析をしているか。(山名副理事長)
- A. 汚染土については、廃棄物の処理・処分の検討の際に将来分析するものと考えているが、 $10 \mu\text{Sv/h}$ 未満の土壌については分析を予定していない。(東電)
- C. 表面線量率と Bq/kg にどのような関係があるか分からないが、サンプルがあるので土壌の分析を検討して頂きたい。(山名副理事長)

<3号機廃棄物地下貯蔵建屋(FSTR)廃スラッジ貯蔵タンク(A)側板の変形について>

- Q. 事故前より貯蔵している廃棄物タンク内の放射性物質やスラッジが、建屋滞留水に混入することで多核種除去設備等での処理に影響はあるのか。(山名副理事長)
- A. これまでのところ、多核種除去設備等での処理に影響が出ていない。(東電)
- Q. 他に従前のタンクが損傷しているものはあるのか。(山名副理事長)
- A. 滞留水を貯蔵しているプロセス主建屋内には廃棄物タンクがあり、滞留水の貯蔵当時に問題の無いことを確認しているが、損傷している可能性は否定できない。(東電)
- C. 典型的な外圧座屈と思われるが、事故前から廃棄物を貯留しているタンク類について、インベントリのデータを整備していくこと。(岡本教授)

<「原子炉格納容器内部調査技術の開発」ペDESTAL内側プラットホーム上調査(A2 調査)の現地実証試験のうち X-6 ペネ用遮へいブロック撤去の実施について(取り外し状況について)>

- Q. 床面に高線量の汚染が確認されたとのことだが、除染による工程遅れはあるのか。(資工庁)
- A. 当初より除染することを計画していたので、全体工程への影響はない。(東電)

<1号機バルーンずれ状況及び今後のスケジュールについて>

- C. 資源エネルギー庁事故収束対応室として、バルーンのずれに関する対応方針を地元の農業関係者及び自治体へ説明するように指示する。(新川室長)

<1号機使用済燃料プール水浄化(放射能除去)の実施について>

- Q. モバイル式処理装置での浄化は問題なくできるのか。(山名副理事長)

A. 過去に 2、3 号機使用済燃料プールの浄化に用いており、Cs-134+Cs-137 の濃度が 10^4Bq/cm^3 から 10^2Bq/cm^3 まで低減できている。(東電)

<5・6 号機の現状について>

Q. いつ頃までにタービン建屋のドライアップやタンク内の滞留水を 0 とするのか。
(岡本教授)

A. 5・6 号機建屋周辺から地下水を汲み上げるサブドレンの復旧も含めて、どのような計画とするか検討している。(東電)

3. その他

- ・ 次回は、2015 年 7 月 30 日(木)に開催する方向、確定次第別途連絡する。(新川室長)

以上